



IUFRD-J NEWS

No. 112 (2014.6) —

第24回ユフロ世界大会、ソルトレイクシティで開催 —国際化からグローバル化へ—

IUFRD-J 議長 鈴木 和夫

第24回ユフロ世界大会は、10月5日～11日にソルトレイクシティで開催されます。世界大会のタイトルは“Sustaining Forests, Sustaining People: The Role of Research”，開会式は10月6日に行われます。詳しくはユフロのホームページ、<http://www.iufro.org> 又 <http://iufro2014.com/> をご覧ください。

前回大会は2010年8月にソウルで開催されて4年が経過しました。その間、IUFRD-J NEWSは、No.101 (2010.11) から No.112 (2014.6) を皆様にお届けしました。IUFRD-J NEWSの話題は、理事会等 (No.101, 102), タスクホース等 (No.103, 106, 108), 第1部会 (No.105), 第2部会 (No.104, 106, 107, 109), 第3部会 (No.104, 108, 110, 111), 第4部会 (No.102, 106), 第5部会 (No.105, 107, 108, 110, 111), 第6部会 (No.105, 109, 110), 第7部会 (No.102, 105, 107, 111) に関するものでした。今後も、ユフロ活動に関する情報をIUFRD-J会員とともに共有したいと思いますので、会員各位には積極的なご投稿をお願いします。

さて、World Forest Weekをご存じでしょうか。国際連合食糧農業機関 (FAO) は2009年2月に最初のWorld Forest Weekを創設し、テーマは“Forests in a changing world”でした。基調講演はブルントラント報告 (‘Our Common Future’) で名高いGro Harlem Brundtland氏がSustainable forest management (SFM) と題して行いました。翌2010年は、ご存じのように国連

の定めた国際森林年 (The International Year of Forests) でした。わが国でも森に触れることが森づくりの第一歩とのメッセージを送り、「森を歩く」をテーマに、森林に係わる多くのイベントが行われました。その後、2013年に、国連は3月21日を国際森林デー (International Day of Forests) と決めました。2014年には (独) 森林総合研究所は、「森を使い、森を守る」をテーマに、沼田正俊林野庁長官の基調講演をはじめとする第1回国際森林デーシンポジウムを開催しました。

World Forest Weekは隔年に開催されるCOFO (The Committee on Forestry, FAO) と同時に開催され、今年は第4回を迎えます。私にも第22回COFO開催 (COFO22, 7月23～27日, Rome, Italy) の案内が届けられました。議題は、‘State of the World’s Forests 2014: Enhancing the socioeconomic benefits from forests’ や ‘Contribution to global processes and initiatives’ などです。

ユフロは国際森林研究機関連合の略称ですが、国際化 (Internationalization) は‘ことば’の壁を乗り越えて、国と国との関係の緊密化を計ることです。そして、現在、さらに一歩進んで、グローバル化 (Globalization) が求められています。その内容は、世界が一体となっていく社会を生み出すこととされます。‘Forest’を冠する国際的なイベントがこれほど目白押しなのですから、私どもも国際化からグローバル化に貢献できるように、ユフロ世界大会の機会を活用したいものです。

ベトナムにおける IUFRO Acacia 会議に参加して

森林総合研究所九州支所 稲垣 昌宏

概要

2014 年 3 月 18 日から 3 月 21 日の間、ベトナム社会主義人民共和国のフエ市サイゴンモリンホテルにおいて「持続的なアカシア人工林の未来」と題した IUFRO 国際集會が開催された。ワーキンググループ 2.08.07「アカシアの育種と造林」が主催となっており、IUFRO のアカシアに関する初めての国際会議である。19 カ国から 200 名を超える参加者があり、研究者のみならず造林の事業者や行政からの参加があった。ワーキンググループ 2.08.07 は、1.02.06「アカシアの育種と造林」および 2.04.01「個体群および生態的保全育種」が近年統合されたものであり、アカシアに関する包括的な研究グループとなっている。ベトナムで開催された理由として、ベトナムにおけるアカシアの重要性が挙げられる。ベトナム戦争によって多くの森林が荒廃させられたことにより、ベトナム政府はその再生が課題となっていた。現在ベトナムの人工林はここ 10 年ほどの国家計画によって 350 万ヘクタールまで増大し、そのうちアカシア人工林は 120 万ヘクタールに達するようになった。アカシア人工林からの木材の大半が木材チップ生産に利用され、家具等の加工品用の木材はいまだ近隣諸国からの輸入に頼っている。国家計画による造林によって蓄積したアカシア資源をより高付加価値なものに活用したいという政府の要望が強く、初のアカシア会議の開催地に選ばれたとのことであった。

フエは 20 世紀までグエン朝の首都が置かれた地であり、数多くの歴史的建造物が残っている。近代化による

喧噪が顕著なハノイやホーチミン市と比べて静かな環境にあり、日本の京都に似た雰囲気があった。特に最高気温 36℃を超えるホーチミンとは 10℃ぐらい気温差があり、1901 年開業のコロニアル調のホテルの雰囲気とも相まって、快適に会議期間を過ごすことができた。

研究発表会

アカシアの早生樹造林を推進したオーストラリア国際農業研究センター (ACIAR)、オーストラリア連邦科学産業研究機構 (CSIRO) を中心としたオーストラリアの研究グループとベトナム森林科学アカデミー (VAFS) が中心となって会議が開催された。

会議は幅広い分野からの発表があり、大きく分けて持続的造林技術、病虫害などのリスク評価と管理、育種やバイオテクノロジー分野の 3 つの分野での発表があった。造林分野に関しては CSIRO の EKS Nambiar 博士の存在が大きかった。Nambiar 博士の持続的生産に関する発表や会議を率先して導いていく姿勢には大変感銘を受けた。適切な施業管理 (立地管理、施肥、枝打ち) をおこなえば、アカシアもユーカリ並みに通直に育ち材積も相当なものとなる写真が示された。また 2 世代目 3 世代目についても品種改良等で生産性が落ちるどころかより上がっていく例が示された。CSIRO の C Harwood 博士からは、全体の材積を増やすため枯死を減らすことが重要であるとの報告があった。病虫害については *Ceratocystis* 属がもたらす萎凋病が大きな問題となっており、Boden and Associates (元 CSIRO) の D Boden



写真-1 会場となったサイゴンモリンホテル



写真-2 開会式

氏からはアカシア導入後 50 年が経過したマレーシアサバ州では、今後かなり生産性が低下する懸念が示された。特にアカシヤマンギウムは適当に植林してもそこに育ってしまうことが仇となっている。生産性を上げるには集約的管理が必要であるとの主張がなされた。

また研究者のみでなく、企業及びコンサルティング会社からの発表もあった。特に国際的な木材コンサルティング会社である RISI 社の Bob Flynn 氏によるチップ材の世界的動向に関する発表は、世界最大の輸入国が日本でありながらこれまであまり知見がなく、大変興味深く聞くことができた (<http://www.risi.com/pulpwood>)。木材チップはパルプ用には高い品質が求められるとのことで南アフリカのモリシマアカシアチップが日本に多く輸入されており、逆にパーティクルボードや燃焼用にはそれほど品質が求められないとのことであった。ベトナムは 2011 年からオーストラリアを抜いて世界第 1 位の木材チップ輸出国となっており、日本のほか中国の輸入が急速に伸びているとのことである。バイオマス発電目的では、世界第 3 位の輸出国であるタイから日本の特定の企業に輸出されているとのことであった。再生可能エネルギー導入拡大を目的とする日本の木材固定価格買取制度にはオーストラリアの木材会社も強い関心を示していた。このほか、主に南アフリカ共和国の研究者から侵入種としてのアカシアに関する発表も数件行われた。

日本からは京大生存圏研究所の梅澤俊明先生が招待講演を行ない、他に京大金子隆之先生、農大栗延晋先生、JICA 井上康之氏（ハノイ駐在）、住友林業喜多智氏、王子製紙助野真一氏（ラオス駐在）および報告者が参加した。東南アジアからは、日本と過去に行なわれた共同プロジェクトの関係者も多数参加されており、報告者は会議運営の中核となったベトナム VAFS のメンバーを

はじめとして、マレーシアサバ、サラワク州でお世話になった方々と旧交を温めることができた。またアカシアの養分循環関係で著名な論文を執筆されている方々と直接言葉を交わすことができた。報告者はアカシア類のリンの効率的な利用に関する発表を行い、会議最後の Key findings の中にも採用された。

エクスカーション

20 日のエクスカーションは 4 台のバスに分乗し、フエ市から 40 km ほど離れた Phong Dien 地区にある海岸近くの砂質土壌地帯の環境造林地、75km ほど離れた Quang Tri MDF 工場、85km ほど離れた CSIRO と VAFS の Cam Lo 地区のアカシア試験地の見学をおこなった。

環境造林地は海岸から数 km 離れた場所にありもとは完全に植生がない状態であった。1994 年から環境植林を開始し、最も海岸に近い部分にモクマオウを植え、他の場所を *Acacia crassiparpa* および乾燥地に適応したアカシア類の植林が行なわれた。環境植林であったので木材生産に適する大きさではなかったが、かなりの表土が樹冠によって覆われる状態にまでなっていた。リターによって表層が覆われることによって砂の移動が防止され、リター層中に細根が広がることでごく表層で養分が回転していることが推察された。同様に砂質な土壌にアカシア植林されている地域（ブラジル、コンゴ）で研究プロジェクトを推進しているフランス CIRAD の Dr. Galiana に尋ねたところ、ここまで砂質で条件の悪い場所では珍しいとのことであった。アカシアの養分制限地における耐性が改めて確認された。

Quang Tri MDF 工場ではアカシアチップを接着によって固めた MDF パネルの生産過程を見ることができ



写真-3 Phong Dien アカシア環境造林地



写真-4 Cam Lo アカシア試験林

た。ベトナムにおけるアカシアの植林面積はこの10年強で3倍ほどになり、MDFパネルの生産も伸びているとのことであった。こちらの工場の近隣はベトナム戦争の激戦区であったとのことで、道中多数の墓や戦没者慰霊碑があった。

Cam Lo 試験地では、施肥試験や育種試験等、VAFSとCSIROの共同研究が広大な試験地内で行われていた。試験地は日本で言う赤黄色土壌が広がっていたが土壌が非常に堅く、土壌断面は40cm程度までしか掘ることができなかった。リンの施肥試験が行なわれていたが期待された効果が得られず、2世代目の造林で何が生産性に影響しているかを測定している段階とのことであった。また、アカシアとフタバガキのラインプランティングなどの試みも行なわれていた。

おわりに

日本はこれまで様々な形で熱帯造林に携わってきたが、今回の会議で東南アジアの研究者と話す度に京都大

学との接点を話された。数10年前の留学生たちが第一線で国の産業促進のために活躍する時代となったことを実感する出来事であった。

また、早生樹造林は熱帯のみならず温帯でも成功するという情報に驚かされた。南アフリカでは日本でも過去に造林が試みられたモリシマアカシアの造林が10年ローテーションで軌道に乗っており、材は高品質木材チップ、樹皮はタンニン生産が採算ベースで回っているとのことであった。日本のモリシマアカシア造林はスギヒノキ不適地の未熟土壌で行なわれた例が多かったが、今後発電用などで質を問わずバイオマスとしてのみの需要が高まった場合、現在スギヒノキが育っている適地にアカシア植林を行なったらどうなるのかを想像せずにはいられなかった。

会議のおわりに議長がタスマニア大学のRod Griffin教授からマレーシア国立大学のWickneswari Ratnam教授に交代した。次回の開催は2017年夏にインドネシアで行なわれることが決定した。

IUFRO-J 平成 26 年度機関代表会議

平成26年3月29日に大宮ソニックシティにおいて、標記会議が開催されました。A会員12機関、B会員6機関の代表と3名のIUFRO役員の方に出席いただき、鈴木和夫議長の司会で議事が進められました。以下では、代表会議で審議、承認された議題の概要を報告します。なお会議開催に際して東京大学の第125回日本森林学会大会運営委員会の皆様にお世話になりました。この場をかりてお礼申し上げます。

議長挨拶

議案の報告と審議に先立って鈴木議長より、今年10月に米国ソルトレイクシティで開催されるIUFRO世界大会に向けて、IUFRO-Jからの情報発信を強化したいこと、IUFRO-Jに対して積極的に希望を出していただきたいこと、会員相互の情報共有を促進するため電子メールの活用を進めたいこと等、事務局からの提案の概要について、説明がなされた。

議題 1. 平成 25 年度会務報告

1. 一般会計

1) IUFRO-J News 発行

No.109 (平成 25 年 7 月)

- ・ IUFRO PAPM2013 報告
- ・ IUFRO プナ会議報告
- ・ IUFRO 国際研究集会「第3回 IUFRO ラテンアメリカ会合 (IUFROLAT 2013)」参加報告
- ・ IUFRO-J 平成 25 年度機関代表会議
- ・ 事務局からのお知らせ

No.110 (平成 25 年 11 月)

- ・ 「21st International Wood Machining Seminar (第21回国際木材機械加工セミナー)」開催報告
- ・ IUFRO3.08&6.08 合同研究会「小規模林業とコミュニティ林業の未来に向けて」の開催報告
- ・ 事務局からのお知らせ
- ・ GFIS-Japan Training Workshop に参加して

No.111 (平成 26 年 2 月)

- ・ 第15回森林資源におけるシステム分析シンポジウム―持続可能な森林バリューチェーン分析 (SSAFR2013) に参加して

- ・ IUFRO ユニット 7.0210 「IUFRO 2013 – Pine Wilt Disease Conference」に参加して
- ・ IUFRO 5.01.04 材質モデリング部会第7回研究集会 (MeMoWood) 参加報告
- ・ 事務局からのお知らせ

会誌送付会員（平成 26 年 2 月 25 日現在）の現状

A 会員：23 機関 576 名（会員数前年度比：8 人減）

B 会員：12 機関 9 口 + 12 名（会員数前年度比：1 機関減）

C 会員：19 名（会員数前年度比：6 人減）

賛助会員：なし

2) 理事会出席助成

なし

3) IUFRO 関連研究集会事務局・参加助成

事務局：(40 万円)

21st International Wood Machining Seminar

(第 21 回国際木材機械加工セミナー)

20 万円(平成25年8月4日～7日 つくば国際会議場)

IUFRO カンファレンス「小規模林業とコミュニティに密着した林業の未来」

(3.08.00 小規模林業部会 (3.08) とジェンダーと林業 (6.08) との共同開催)

20 万円 (平成 25 年 9 月 8 日～13 日 九州大学)

4) GFIS-Training Workshop の開催 平成 25 年 10 月 24 ～ 25 日

日本国内の GFIS 情報提供者と情報利用者を増やすことを目的に、IUFRO-GFIS 事務局主催、森林総研共催で実施され、GFIS 事務局、東京大学、名古屋大学、九州大学、国際熱帯木材機関 (ITTO)、森林総研から合計 17 名の参加者があった。

5) IUFRO-J メールニュース

冊子で発行している J-News を補完し会員間の情報交換を進めるため、平成 19 年 9 月よりメールによる情報提供を開始した。AB 会員の代表もしくは連絡員の方に配信。それ以外の機関会員の代表もしくは連絡員の方には、機関内の会員の方々に転送を依頼。

平成 25 年度は、下記、3 件を配信。

- ・ 2014 IUFRO 世界大会セッションプロポーサルについて。
- ・ 2014 IUFRO Student Incubator Session について

- ・ IUFRO Congress Spotlight #17:
Forest outlook: What does the future hold?

6) 長期滞納会員の解消

複数年にわたり連絡が取れない方を退会とした。

2. 平成 25 年度役員

議 長 鈴木 和夫 (森林総研)

監 事 阿部 恭久 (日本大学)

藤田 和幸 (元森林総研)

幹 事 清野 嘉之 (森林総研)

新山 馨 (森林総研)

主 事 藤間 剛 (森林総研)

議題 2. 平成 25 年度会計決算報告

1. 一般会計（平成 26 年 2 月 28 日現在）

【収入】

科 目	予 算	決 算	備 考
前年度繰越金	1,325,639	1,325,639	
会費 A 会員	584,000	494,000	
B 会員	57,000	38,000	
C 会員	25,000	14,000	
前年度未収分	132,000	73,000	H24 年度までの会費を H25 年度に払った団体、個人（前年分を当年に）
前納分	1,000	3,000	H26 年度以降の会費を H25 年度に払った団体・個人（次年度分を当年度に）
雑収入	1,000	90	利息
単年度収入小計	800,000	622,090	
合計	2,125,639	1,947,729	

【支出】

科 目	予 算	決 算	備 考
情報活動費	426,500	321,466	J-News 印刷 (No.109, 110, 111) 送料・通信費
内訳 J-News 109 印刷	125,000	118,387	送料(3400円), 発送手数料(3150円)
J-News 110 印刷	125,000	89,827	送料(4780円), 発送手数料(3150円)
J-News 111 印刷	125,000	83,947	送料(4850円), 発送手数料(3150円)
J-News 送料	50,000	22,480	
通信費	1,500	6,825	封筒, 切手代
会議費	30,000	22,000	平成 25 年度機関代表会議 (岩手大学)
旅 費 役員会出席	300,000	0	理事会出席助成
雑 費	10,000	6,760	(振り込み手数料) (会費受領時送金手数料)
予備費・助成	400,000	400,000	事務局助成
単年度支出小計	1,166,500	750,226	
次年度繰越	959,139	1,197,503	2/28
合計	2,215,639	1,947,729	

議題 3. 監査報告

平成 25 年度監査報告

平成 25 年度 IUFRO-J 事業会計について監査した結果、各種帳簿ならびに証拠書類はいずれも、正確に整理・記録されており、本件経理は適正であったことを認める。

平成 26 年 3 月 12 日

IUFRO-J 監事

日本大学 生物資源科学部

阿部 恭久 印

平成 25 年度監査報告

平成 25 年度 IUFRO-J 事業会計について監査した結果、各種帳簿ならびに証拠書類はいずれも、正確に整理・記録されており、本件経理は適正であったことを認める。

平成 26 年 3 月 11 日

IUFRO-J 監事

藤田 和幸 印

議題 4. 平成 26 年度事業計画案

1. 一般会計事業

1) IUFRO-J News 発行

発刊号（予定時期）：掲載記事に関する事務局案 No.112（平成 26 年 7 月）：世界大会関連情報、機関代表会議報告、集会報告

No.113（平成 26 年 11 月）：世界大会報告、集会報告
No.114（平成 27 年 3 月）：集会報告

・各 700 部印刷し、会員配布

・IUFRO および IUFRO-J の目的に添った内容で、会員相互に広く共有すべき記事を掲載する。

・PDF 版の提供：IUFRO-J News の PDF 版を希望する会員にはメールで配布する。

2) 役員会出席助成

IUFRO 役員の役員会出席に対し、単年度一名あたり 15 万円を上限とする。

3) IUFRO 研究集会事務局・参加助成

参加助成：なし

事務局助成：なし

助成事業の概要メモ

○助成申請は随時受け付けている。

○12 月末で集計し、選考委員会に諮り、助成対象を

決定。

○具体的内容

「IUFRO 関連集会 事務局・参加」年間総額 50 万程度

事務局：20 万 / 件、

参加：10 万 / 件 / 件目（発表は海外に限る、ただし世界大会を含まない。）

選考委員会（現在、5 名で構成）で決定。

応募資格：会費を納入している会員に限る。

助成を受けた者のオブリゲーション：J-News での報告。

4) 研究集会の後援

○研究集会が IUFRO-J の目的に沿い、後援内容が経費の支出をともなわない広報支援を行う。主催者からの申請にもとづいて、事務局で後援を決定、実施し機関代表会議に報告する。

5) 2014 IUFRO 世界大会対応

○国際評議員会日本代表、日本代表代理の推薦（会則第 2 条 2）

IUFRO International Council（国際評議員会）は、IUFRO の最高決議機関。IUFRO 役員の任期は、ある世界大会終了後に始まり、次の世界大会終了時に終わるため、2014 年 10 月の世界大会までに IUFRO-J からの推薦者を決めておくことが望ましい。

審議の結果、次期日本代表を森林総研の大河内勇氏、代表代理を東京大学の酒井秀夫氏として、IUFRO-J から推薦することが承認された。

○国際評議員会、拡大理事会への参加助成

○世界大会の情報共有

世界大会事務局、IUFRO 本部から、また IUFRO-J 会員から IUFRO-J 事務局に届いた情報を、IUFRO-J News、およびメーリングリストで会員に周知する。

参考：IUFRO-J 会員がオーガナイズする Technical Session

・Forests and human health: The role of research towards evidence-based practice

・Innovative planning and managing approaches for sustainable tourism in forests and natural areas

・Forest ecosystem services contributing to agriculture

・Ecology and dynamics of dead wood dependent species at multiple trophic levels – Promoting natural pest control in managed forests or increasing hazards?

- ・ Radioactive contamination in forest ecosystems and safe uses of forest products
- ・ Advances in forest carbon measurements and monitoring for building REDD+ MRV systems
- ・ Understanding the relationships among biodiversity, carbon, and people for REDD+ forests: The importance of environmental and social safeguards

6) その他、審議事項

- ・ IUFRO J-News PDF 版の取り扱いについて。

個別の記事については、執筆者による PDF ファイルの再配布、ウェブサイトへの掲載を許可する。ウェブサイトへの掲載については、事務局に連絡するものとする。

- ・ 情報伝達体制の整備について。

IUFRO-J 会員への情報提供を円滑にするために、各機関に所属する会員のメールアドレスを含む名簿を整備する。

事務局提案に対して、どのような情報提供がなされるのかとの質問が出席者からなされ、IUFRO 本部から届く定期刊行物に関する情報および世界大会関連が中心になるとの回答がなされた。各機関に所属する会員のメールアドレスは、各機関でとりまとめて、事務局に提出することとなった。

議題 5. 平成 26 年度予算案

予算案立案の基本的な考え方

○単年度収支に心がける。

1. 一般会計予算案

【収入】

科 目	予 算	備 考
前年度繰越金	1,197,503	
会費 A 会員	576,000	23 機関 (576 名)
B 会員	56,000	前 12 機関 (9 口 + 11 名)
C 会員	19,000	19 名
25 年度未収分	109,000	2/28 現在
次年度前納	0	
雑収入	100	利息
単年度収入小計	760,100	
合計	1,957,603	

【支出】

科 目	予 算	備 考
情報活動費	427,000	J-News 印刷費 (No.112,113,114) 送料・通信費
内訳 J-News 112 印刷	130,000	
送送料	10,000	送料, 発送手数料
J-News 113 印刷	130,000	
送送料	10,000	送料, 発送手数料
J-News 114 印刷	130,000	
送送料	10,000	送料, 発送手数料
通信費	7,000	封筒, 切手代
会議費	30,000	平成 26 年度機関代表会議 (大宮ソニックスティ)
旅 費 役員会出席	450,000	国際評議員会, 拡大理事会出席助成
雑 費	10,000	振り込み手数料, 送金手数料
助成	0	
単年度支出小計	917,000	
予備費	1,040,603	
合計	1,957,603	

議題 6. 役員選出、承認

平成 26 年度役員候補

役員	氏 名	所 属	区分	(任 期)	[役職による指定]
議長	鈴木 和夫	森林総研	現	(H19 年 4 月～)	[理事長]
監事	阿部 恭久	日本大学	現	(H21 年 4 月～)	
	藤田 和幸	元森林総研	現	(H23 年 4 月～)	
幹事	清野 嘉之	森林総研	現	(H25 年 4 月～)	[国際研究担当 COD]
	新山 馨	森林総研	現	(H25 年 4 月～)	[国際連携推進拠点長]
主事	川元スミレ	森林総研	新	(H26 年 4 月～)	[国際研究推進室長]

議長、幹事および監事は機関代表会議で選出、主事は議長が委嘱。(会則第 11 条)

任期は 2 年、再任は妨げない。(会則第 12 条)

【参考】

IUFRO 国際評議員会日本代表 (2010 ～ 2014)

代 表 大河内 勇 (森林総研)

代表代理 酒井 秀夫 (東京大学)

IUFRO 役員 (2010 ～ 2014)

第 3 部会 Deputy Coordinator

酒井 秀夫 (東京大学)

第 6 部会 Deputy Coordinator

伊藤 太一 (筑波大学)

その他

酒井秀夫氏から 2 期役員をしたことから、今期で第 3 部会 Deputy Coordinator を交代すること、伊藤太一氏から第 6 部会関連集会をブータンで開催すべく準備中であることと役員を交代する可能性があることの報告があった。今後、IUFRO の中で日本のプレゼンスをあげるには、国際研究集会を開催するなどより実績を積んでいくことが必要である。

第 24 回 IUFRO 世界大会に関するお知らせ

1) 展示のご案内：以下のリンクでブースを確保して展示の申し込みができます。森林総合研究所 REDD 研究開発センターは 1104 を確保しており、隣が空いています。<http://iufro2014.com/trade-exhibition/exposition/>

2) サイエンスツアー情報：世界大会では各国代表が米国の森林、土地経営を研究する機会を提供しています。世界大会パンフレット p.23-29 で、ツアープログラムが紹介されています。http://www.iufro.org/download/file/9975/4139/iwc14-congress-booklet_pdf/

3) トラベル情報：

・公費出張のための見積書が不要な方は、世界大会ウェブサイトで紹介されている Skyteam にてチケット手配が可能です。下記リンクで event ID (promocode) 2460S を入力してください。

<https://www.skyteam.com/en/Supporting-your-business/Global-meetings/Attend-an-event/>

・空港から会場 (The Salt Palace Convention Center in Salt Lake City, Utah, USA) への移動方法が紹介されています。<http://iufro2014.com/travel-lodging/transportation/>

・宿泊情報：<http://iufro2014.com/travel-lodging/lodging/>

・米国では、同時多発テロ事件以降、入国審査が大変厳しくなっております。渡航書類や手荷物にご注意下さい。渡航に査証が必要な方は、以下のサイトをご確認いただき、確実に書類事務を済ませて渡航して下さい。<http://iufro2014.com/travel-lodging/international-guests/>

4) IUFRO News, および世界大会 spotlight が適宜更新されています。以下のリンクをご参照ください。

<http://www.iufro.org/publications/iufro-spotlights/>

<http://www.iufro.org/publications/news/electronic-news/>

事務局からのお知らせ

1. 平成 26 年度機関代表会議の決定に従い、メールニュース発信のための会員のメールアドレスをご送付いただきました方々に御礼申し上げます。

2. IUFRO-J では、森林林業木材に関する国際情報、国際研究集会の開催予定や内容紹介を充実させ、会員間で共有を図っております。以下の IUFRO 国際研究集会にご参加を予定されている方々におかれましては、IUFRO-J News へのご寄稿をお待ちしております。
<http://www.iufro.org/events/calendar/current/>

3. 第 24 回 IUFRO 世界大会に関するご質問は事務局までご連絡下さい。

IUFRO-J News No. 112 平成 26 年 6 月 24 日

国際森林研究機関連合 - 日本委員会事務局

〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1

森林総合研究所 国際連携推進拠点

TEL 029-829-8327

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/>

iufro-j@ffpri.affrc.go.jp

〔編集・発行〕